オルソリハビリテーション病院・臨床栄養部

谷本　真紀・氏原　久実

2022 年の概要

2022 年は、「①オルソ栄養士の質の維持・向上」、「②栄養指導の拡充」、「③食事サービスの向上」の 3 点を目標に掲げ、新型コロナウイルスへの感染対策を継続しながら取り組んできた。

まずは、マニュアルの改訂に取り組み、業務の標準化を行った。そして回復期に対応する栄養アセスメント評価方法を取り入れ質の向上を図った。栄養指導の件数は伸び悩んだが、外来患者向けの「骨コツ新聞」の作成に参加し、骨粗鬆症の食事や栄養について発信できた。

食事サービスにおいては、コロナウイルス関連によるスタッフの欠員により、2 度の選択食休止（2/12～3/18、9/28～10/11）を余儀なくされた。そんな環境の変化がある中で、委託会社の協力を得ながら、これまで要望のあった選択食にスープを導入、また延食献立の見直しを行い患者満足度の向上を図った。また、インシデント発生時にはシステムの見直しや新たな対策を共に講じることができた。

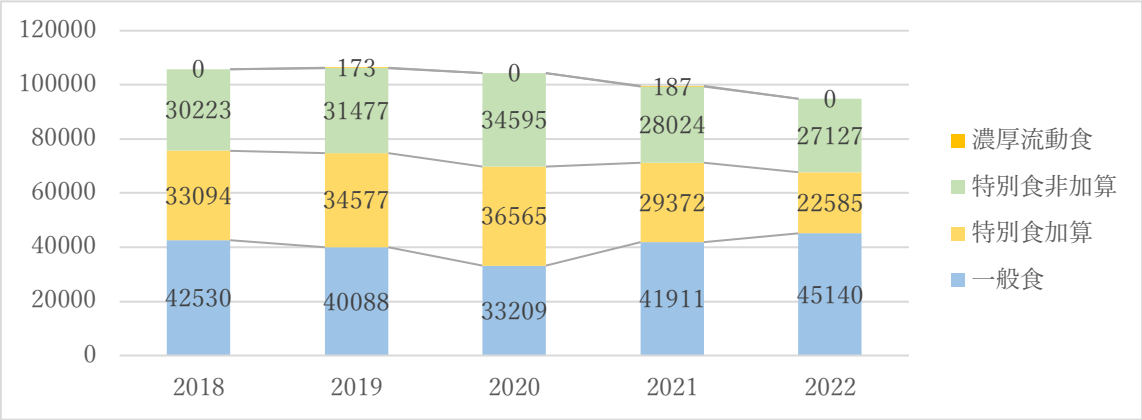
給食状況報告

給食提供数は年間食種別食数（表 1）の通りで、前年(2021 年：99,494 食)より−4642 食とさらに減少し、特別食比率も 52.4%(2021 年：57.9%) と減少している。適切な方へ特別食の対応は行っていたが、高齢化が進み、食事摂取が進まない方などには、摂取量の確保のため、特別食を一時的に解除し、個々にあった食事を調整した。

表 1：給食状況報告

年間食種別食数　＊延べ人数ではなく食数			
一般食	常食	34,357 食	36.2%
	学童食	0 食	0%
	軟食	10,780 食	11.4%
	流動食	3 食	0%
特別食	加算	22,585 食	23.8%
	非加算	27,127 食	28.6%
	濃厚流動食	0 食	0%
計		94,852 食	100.0%

図 1：給食状況報告



嗜好調査は前年と同様に、新型コロナウイルス感染予防を考慮し退院時アンケート（2021.9.1～2022.8.31）の『食事について』『栄養士からの説明』のデータを集計し、評価・考察を行った。

患者の男女比率は 28：72 とほぼ前年並み。特別食の内訳では高血圧食が 50.4%、糖尿病食が 31.8%と 2 食種で 80%以上を占め、少数を特別減塩食、腎臓食、脂質異常食、その他の食種が占めた。

味付けは、前年 45%→38%と「良い」の評価は下落、「悪い」が 7%と前年と変わらず、課題を残す結果となった。ボリュームについては「多い」との回答が 31%と前年とは変わらず、主食量の個別調整を継続すると共に、副食の出来上がり量の適正化をより進め、過不足ない提供量での材料等の質向上を図る指標としたい。

栄養士からの食事説明では「理解できた」との評価が 90%と昨年と同様であった。入院時の面談、栄養指導、クレーム対応、退院時指導などすべての栄養士対応への総括評価と考えられる。

感染対策中の対応は、介入時間の短縮や簡略を余儀なくされる部分もあり、患者への対応が不十分ではなかったか、振り返る 1 年でもあった。

栄養指導

栄養指導は、年間 129 件を実施した。2021 年の 134 件から、大きな減少はないが、算定件数は 20 件(2021 度年度 49 件)と-40%減となった。入院患者数・特別食提供の減少と、算定要件である 30 分以上の指導は感染対策の点から時間を縮小、指導内容も簡略したことも要因と考えられる。しかし、非加算の指導は 109 件（2021 年度 85 件）と増加しており、退院後の食事について不安のないよう、必要な患者には指導をおこなった。

外来指導は新型コロナウイルス感染対策や病院栄養士の人員不足のため、運用を縮小していた。

表 2：栄養指導件数

入院指導	129 件	加算	20 件
		非加算	109 件
外来指導	0 件	加算	0 件
		非加算	0 件

人事

前年 12 月に病院管理栄養士が 1 名退職となり、1 月から 2 名体制となった。10 月には病院管理栄養士が 1 名退職となったが、育休明けスタッフ 1 名が着任した。

給食委託会社（ａｉｍサービス）スタッフは、新型コロナ関連により、調理師・パートスタッフの休職があり、随時、代行スタッフが補充されていた状況。6 月には栄養士の入れ替わりがあった。

表 3：職員配置数(2022 年 12 月時点)

職員配置数	
病院	管理栄養士　1.8 名
委託会社	栄養士　　1 名
	調理師　　2 名
	調理員　　6 名

新型コロナウイルス感染対策は 3 年が経過し、状況によっては、変化、または引き続き耐える 2023 年となるかもしれない。しかしどんな状況でも、臨床栄養部は今後も効果的なリハビリテーションの一助を担える栄養サポートに取り組んでいきたいと考える。

臨床栄養部の 2023 年は、前年度の目標であった「①栄養管理業務の質の維持・向上」、「②栄

養指導の拡充」、「③食事サービスの向上」の 3 本柱を引き続き掲げ、前進、実現に注力する。この継続は、今後の様々な環境変化にも柔軟に対応できる力となると考え、新システムの構築、業務改善を行っていきたい。